

## 市民みずからの手で 盛り上げを！

### 夢フェス市民サポーターズ



山中徳正さん

いよいよ今秋、第17回国民文化祭が鳥取県内各市町村を会場に開催されます。この50年に一度のお祭りを市民みんなで盛り上げようと、市民の有志がボランティアで「夢フェス市民サポーターズ」を結成。県内外から鳥取市を訪れるたくさんの出演者や観客へのさまざまなもてなしを計画しています。

今回は、会長を務める山中徳正さんにその内容や、国民文化祭に対する思いなどをお聞きしました。

聞き手：橋尾千秋（いなばぴょんぴょんネット）

**橋尾**：国民文化祭への思いや夢フェス市民サポーターズを結成された経緯は。

**山中**：昨年と一昨年の国民文化祭のようすを聞いたところ、市民はあまり関心が無く、関係者と行政の主導で行われていただけでした。せっかくなにかの人が来られる機会に、街の中でこそ歴史や文化の香りがするものを表現していくべきではないか。出演者や観客のみなさんが街を歩いていて、「お、街角でコンサートをやっているな」「こんなところで弦楽4重奏をしているな」ということがあっていいのではと考えたのがきっかけです。ただ行政に対して言うばかりでなく、自分たちも言うからには何かをやるのではないかと。また、これを契機として市民運動を起こしていこうとこの会を結成しました。

**橋尾**：夢フェス市民サポーターズには、いろいろな部隊があるとお聞きしていますが。

**山中**：それぞれ事業の内容によって「かざり隊」「にぎやかし隊」「くつろぎ隊」「もてなし隊」に分かれ、それぞれに隊長・副隊長がいます。かざり隊は、鳥取の街を花で飾る、それだけでなく全国発信してはということで「全国ハンギングバスケットコンテスト」を実施。にぎやかし隊は「いつでもステージ」「どこでもステージ」という、街角のちょっとしたところですてきな音が流れている。ちょっと演奏してみたい人が気軽に参加できる演奏会にします。もてなし隊は、鳥取駅や会場で湯茶のサービス。そして、くつろぎ隊は鳥取駅と県民文化会館でいなば温泉郷のPRも兼ねて「足つけ湯」のサービス。他にもさまざまなことを計画しています。

**橋尾**：鳥取らしいもてなしということですか。

**山中**：そうです。他の市町村もそれぞれもてなしをされると思いますが、市民みずからがボランティア隊を作って盛り上げるというのは珍しい。おそらく国民文

化祭では初めてじゃないでしょうか。鳥取市に来て良かったなと感じてもらい、リピーターになってもらえば鳥取の観光面でも活力になると思います。

**橋尾**：そのほかに期間中の取り組みは。

**山中**：32万石お城まつりがあります。10月11日から3日間開催されますがここでも4000人くらいが運営ボランティアとして集まる計画にしています。また、商店街と社会教育事業団が中心になって四季折々の油絵を街に飾ってもてなすことにしています。この秋は、鳥取市がおもしろくなりそうですよ。

**橋尾**：これから何か手伝いたい人もいると思いますが。

**山中**：ぜひご協力いただきたいですね。門戸は開いています。参加の気持ちが今回の取り組みの原点ですから。

**橋尾**：期間中は街角に音楽が流れ、商店のウィンドウでは絵画展、そして美しい花がいっぱい、今から国民文化祭が楽しみです。これからお忙しくなられると思いますが、ご活躍を期待しています。

**山中**：ありがとうございます。がんばります。

敬称は略させていただきます。

